

## 新型インフルエンザ（A/H1N1）対策総括会議

座長 金澤一郎 殿

5月19日開催の第5回新型インフルエンザ（A/H1N1）対策総括会議からいただいた質問について、以下のように回答いたします。ご査収の程、よろしくお願いいたします。

松本和則

## ＜質問内容＞

ワクチン接種後の早期死亡について、日本は米国の25倍であり、関連の論文が6月1日号のCID（Haruka Nakada et. al., CID 2010:50 (1 June) 1548-1549）に掲載されているが、それに関する見解如何

## ＜回答＞

CIDの論文を拝見しましたが、論文の結論は、「重度の基礎疾患を有する患者においては、ワクチンの副反応が重篤な転帰に繋がる可能性も完全には否定できないことから、接種時及び接種後の処置等において留意する必要がある」とした薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会及び新型インフルエンザ予防接種後副反応検討会（合同検討会）での見解と同様です。

しかし、論文において、ご指摘のような日本と米国の死亡報告頻度の差についての言及はありませんでした。米国では小児等から優先的な接種を行ったのに対して、日本では基礎疾患のある高齢者から優先的な接種を行ったことなど、接種環境の背景が異なるため、そのような国同士で接種後死亡例数の情報を単純に比較はできないと考えております。

また、個々の死亡事例についても、決してワクチンが関係している可能性が高いわけではなく、大部分は、基礎疾患の悪化や再発による死亡の可能性等ワクチン以外の原因の可能性が高いと考えられるものでした。限られた情報の中で因果関係は評価できないものもありましたが、死亡とワクチン接種との直接の明確な関連が認められた症例はなく、因果関係の評価のためには、合同検討会でも疫学研究を実施して検証すべきとの意見でした。